

2014.3.9 「エツファタ(開け)」 マルコによる福音書7:31~37

人々は、イエスのもとに「耳が聞こえず舌の回らない人」を連れてきました。この不自由な人は、きっと人々からいつも気に止められていたのではないかと思います。ですから、人々はイエスのうわさを聞いてその人を連れてきて、「その上に手を置いてくださるよう」と癒しを求めたのでしょう。

イエスは、人々の思いを受けて、その人を群衆の中から連れ出し、向き合います。そして、誰も触れることのなかったと思われる両方の耳に指を差し入れ、舌に触れてくださいました。そのイエスの行為は、その人のこれまでの辛い思いを汲み取ってくださるものであったことでしょうか。どんなに慰めを受ける業であったことでしょうか。

それからイエスは、「エツファタ(開け)」とおっしゃいました。「治れ」「良くなれ」ではなく「開け」とおっしゃったのでした。そこにはきっと、肉体の癒しだけでなく、社会の中で閉ざされた思いでいた人が、開かれていく、開かれていいんだ、開かれよ、とイエスがおっしゃっているように思います。

「エツファタ」という言葉は、私たちにも語られている言葉であることを受け取っていきたいものです。耳が聞こえない、話せない人と共に生きる時、社会の中で小さくされた者の側に向き合う時、私たちの側が、開かれず、閉ざしていることはないでしょうか。開かれるべきは、私たちの側ではないのか・・・ということも教えられて行きたいものです。(神谷)